

1 学校教育目標とめざす子ども像

豊かな心を持ち、進んで学び、たくましくやり抜く子どもの育成

かしこい子（知）・・・自ら考え、意欲的に学ぶ子

すなおな子（徳）・・・互いを認め合い、地域や仲間の中で自己を伸ばす子

強い子（体）・・・新しいことにも積極的に取り組み、最後までやり抜く子

2 本年度の重点（子どもたちのどこをどう伸ばすか）

心の強さを
もつ子ども

- ・自分のもちあじを知り、夢や目標をもって伸ばそうとする姿
- ・堂々と意見表明し、様々な考えの友だちと議論・対話する姿
- ・友だちと競い合い、勝つために努力する姿

3 重点の具現化のために

（1）成長へのみちすじづくり

- ・個々のみとりとねがう姿の共有化（本人、担任、保護者、全校児童、全職員）
- ・通知表への記述方法共有（1学期：ねがい 2学期：変容 3学期：総括）
- ・変容の評価

（2）小規模化への対応（特性を生かす）

①強みを生かすこと

- ・主役、選手となりやすい環境の下で、役割を果たす体験を積ませる。
- ・異学年交流により、下学年をいたわり、上学年を手本として育つよう支援する。
- ・個の良さや課題を明確にした個に応じた指導をする（個別対応、個別支援）。

②弱みを補うこと

- ・「転ばぬ先の杖」より、転んでどうだったか一緒に考えて次に生かせる子どもにする。
- ・組織を大切にする。（先生とリーダー → リーダーから全員といった構図をつくる）
- ・競争して競い合うような場面設定をする。
- ・大集団での活動、地域の方とふれあう活動を取り入れ、多様な人格にふれさせる。
- ・自分の考えで動いたり、工夫したりする場面を多く取り入れる。

4 「チーム飯梨小」としてのあり方 ～みんなで41人を育てる～

(1) 職員全員の情報の共有化とベクトル合わせ

- ・情報共有の場を設定する。(職員会議, ケース会議)
- ・子どもの良さや課題を共有し, 同じ目線で支援し評価する。(良さや変容は声に出す)
- ・価値観や教育観の違いはあることを前提に, 意見をすり合わせ同じ方向性を探る。
(自分の考えだけで進めず「学校として」の考え方で進める)

(2) 全員でよい教育環境をつくる *飯梨小スタンダードの質向上

- ・教室等の環境美化に努め, 最高の環境で子どもを迎える。(放課後の環境美化)
- ・言語環境を整える。(元気のよい挨拶, 言葉がけ)
- ・校舎周辺の環境を整える。

5 家庭・地域・外部機関に信頼される学校であるために

(1) 接遇のレベルアップ

- ①気持ちのよい挨拶
- ②気持ちのよい電話の対応
- ③来客への接待(全員が心がけて)

(2) 「これでよい」より「これがよい」に

- ①気持ちを伝えるのは「連絡帳でよい」から「会って話すのがよい」に
- ②提出や報告の期限は「間に合うのでよい」から「早いほうがよい」に

6 今年度はこんな一年

(1) 複式学級における指導法の学び合い

- ・研究とのタイアップ
- ・保護者への説明

「複式学級になって子どもが成長した」となるように

(2) 少人数化(児童も教員も)に伴うスリム化

- ・保護者, 地域への事情説明と意見交換・・・鼓笛など
- ・校内における対応策検討

(3) 新指導要領完全実施に向けての準備

- ・来年度のカリキュラム確定
- ・道徳, 外国語の評価再検討

(4) 給食のセンター化に向けての準備

- ・施設, 設備面の改善
- ・保護者説明や弁当のお願い
- ・アレルギー対応の方向性につき保護者と協議